

JLEM NEWS LETTER Vol.28



第33回日本語教育方法研究会開催

発表27件

第34回は東京農工大学にて

2009年9月26日(土)、第33回日本語教育方法研究会が弘前大学で開催されました。青森県では初の開催になります。

実行委員の鹿嶋彰先生、スタッフのみなさま、大変お世話になりました。ありがとうございました。

また、研究会前日の9月25日に運営委員会が開かれ、会の運営について、報告・審議がなされました。詳細については、このレターの記事をご覧ください。

次回の研究会は、2010年3月27日(土)東京農工大学において開かれます。詳しい情報については別紙を参照のうえ、みなさまふるってご参加くださいませ。

開催を終えて

鹿嶋 彰
(弘前大学)

さる9月26日(土)、弘前大学で、弘前大学国際交流センターの後援を頂き、第33回研究会が行われました。1995年、2006年の2回、東北大で研究会が開催されたことがありますが、北東北での開催は初めてになります。

会場をお引き受けしましたが、弘前は、東北地方の国立大では、唯一、首都圏と新幹線で結ばれていない地域にある大学です。また、日本語教育学専攻も無く、スタッフも限られているので、開催がうまくいくかどうか、非常に心配でした。

しかし、当日は、東北北海道、首都圏のみならず、九州或いは海外を含め、全部で80数名のご参加を頂き、新入会員や、当日参加の方もいらっしゃいました。青森県は、日本語教育があまり盛んではないのですが、この会により、現場での実践と結びついた研究とその知見を共有できる機会を持つことが出来、県内の日本語教育関係者が集まる機会が持てました。特に地元にはいろいろなプレゼントのあった会 だったと実感しています。

また、いつもの通り、会員の皆様のご協力により、設営から発表、後片づけ、そして懇親会と、会を進めることが出来ました。運営委員として、心から御礼申し上げます。ありがとうございました。

次回開催にあたって

馬場 眞知子
(東京農工大学)

次回のJLEMは2010年3月27日(土)に東京農工大学小金井キャンパスで開催することになりました。JLEMの開催は1998年春以来2回目となります。当時留学生センターだったセンターが国際センターとなり、新しい建物に移るなどこの間にさまざまな変化がありました。小金井キャンパスは中央線で新宿から約25分「東小金井」駅から徒歩8分のところにあり、都心からのアクセスもよく便利なおところにあります。国際センター自体はあまり広い場所ではなく、ご不便をおかけするとは思いますが、武蔵野の緑豊かな自然に恵まれたキャンパスにぜひ足をお運びください。

運営委員会報告

第33回大会の前日、2009年9月25日の夕刻から9時すぎまで、弘前大学総合教育棟2階大会議室にて運営委員会を行いました。出席委員は11名で、5名から委任状が提出され、欠席が1名でした。そこに来年9月の開催校を引き受けてくださっている名古屋の金城学院大学の内山先生がゲストとして加わり、名嶋事務局と会長の才田で、総勢14名でした。
①会誌のバックナンバー電子化について

会誌のバックナンバーの電子化については、メールをお送りして許諾をいただく作業を行っていますが、お返事をくださらない会員が多数おられます。今後もニュースレター等で回答の送付をお願いしていくことになりましたので、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

②会長候補者・事務局候補者について

前回のニュースレターでは、事務局候補が見つからない、とご報告しましたが、幸い、事務局を引き受けてくださる候補者が得られました。次回3月27日の総会では、皆さまに、新会長と新事務局のご承認をお願いすることになります。

③会誌の原稿提出について

今回からPDF形式での提出をお願いしました。1~2件を除いて、みなさんにPDFで対応していただくことができました。ご協力、ありがとうございました。

④20周年に向けて

1993年に発足したJLEMは、2013年に20周年を迎えます。今回の運営委員会では、記念の活動を行うかどうかについて、アイデアが出ませんでした。会員のみなさん、何かよい提案がありましたら、ぜひ事務局までお寄せください。

⑤今後の開催予定について

次回第34回は、2010年3月27日に東京農工大学小金井キャンパスで開催します。第35回は2010年9月11日に名古屋の金城学院大学で開催予定です。2011年3月以降の開催については、現在検討中です。ご協力いただけるところがありましたら、ぜひご一報ください。

(才田いずみ)

事務局よりご連絡

●研究会の基本的なルールについて
会員の皆様に関係するところをまとめてお伝えすることになりました。会計年度や会費に関することなど重要なことが書かれています。必ず同封の別紙をご参照ください。

●会誌の電子化について

会誌の電子化作業(PDFファイルをCD-ROMに保存)を進めております。その作業の一貫として、事務局電子化係より2009年4月22日から6月4日にかけて、電子メールにて「電子化承約のお願い」をお送りしております。発表歴がおありの方は必要事項をご記入の上、ご返信をお願いいたします。なお第31回研究会時から、特にお申し出のない限り発表申込と同時に電子化の承約をしていただいたものとしてお取り扱いしておりますので、第31回以降にご発表の方はご返信不要です。また、事務手続き上、発表歴のない方にもメールをお送りしていますが発表歴がない場合も返信不要です。ご容赦ください。メールアドレスの変更等でお送りできていない方もいらっしゃいます。発表歴がおありの方でそのようなメールを受け取っていないという方がいらっしゃいましたら、お手数ではございますが、「日本語教育方法研究会 電子化係<jlemdenshika@hotmail.co.jp>まで、ご一報ください。再度お送りいたします。会員の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

●第34回研究会発表募集について

2010年3月27日東京農工大学小金井キャンパスにて開催されます第34回研究会の発表募集を行います。別紙申込要項をご熟読の上、お申し込み下さい。お申し込みには応募資格や会員資格、会費納入状況の確認等も併せてお願いいたします。

●発表応募資格や発表者・共同研究者の位置づけについて

発表申込資格は「申込時に会員であること」です。発表申込と同時に入会することも可能ですが、極力申込前に入会手続きをお済ませください。入会手続きには「電子メールによる申込」と「会費払い込み」が必要です。発表者と共同研究者の位置づけですが、「発表者」は会員であることが求められ、会誌の執筆者になったり会場で発表したりすることができます。一方、「共同研究者」は必ずしも会員でなくてもよいのですが、連名であっても会誌の執筆者にはなれず、一部であっても会場で発表行為を行うこともできません。複数のメンバーで発表・執筆をご計画の際はご確認をお願いいたします。

●バックナンバーについて

会誌バックナンバーの販売を行っております。一冊700円(プラス送料実費)です。10周年記念論文集は一冊2000円(プラス送料実費)です。購入ご希望の方は事務局までご連絡ください。

●研究会のあり方について

引き続き研究会のあり方について検討中です。会員の皆様から広くご意見をいただきたいと考えております。「口頭発表が必要か否か」や「講演について」、「ポスター発表の時間」

等どんなご意見でも結構です。ご意見がございましたら、ぜひ事務局までお寄せください。

会員管理担当委員より お知らせ

1) 次の方々のご連絡先がわかりません。ご存じの方(もちろんご本人でも)、是非事務局

(jlem@sal.tohoku.ac.jp)までお知らせください。よろしくお願いいたします。

桜田 千采/島 弘子/前原 か
おる/高橋 美和子/佐々木 薫
/中村 則子/岩井 五郎/近藤
裕子/土居 佳代子/馮 芳/松
井 晴子/庄司 恵雄/

Francesca Ventura/

尹 ヒョ禎/魏 桂先/福本 太
一/小林 明華/榎木 亜希子/
武永 洋子/草川 麻妃/許 家
純/小林 友美/堀内 貴子/伊
藤実希/張希朱/有賀千佳子/村
上康代/石田愛/内丸裕佳子/吉
田睦/永井涼子/洪在賢

2) 会費振り込みに関して

今回お送りした封筒のラベルをご覧ください。左下に小さく4桁の数字が印字されています。

「2009」と印字されている会員の方は2009年度分まで会費を納入いただいている会員の方です。ただし、これは2009年10月末日の記録ですので、11月以降にお振り込みいただいた方の分はラベルには反映しておりません。その点、ご了承ください。郵便局で振り込まれる場合は、振込者欄への記入

は氏名だけで構いません。所属も記入する場合は「氏名を先」にしてください。所属を先に記入すると後ろの氏名がカットされる場合があります。

なお、会費をお振り込みいただいた方で以下の方のお名前が確認できておりません。是非事務局(jlem@sal.tohoku.ac.jp)までお知らせください。よろしくお願いたします。

2009年1月26日に6000円納入いただいた「ワセダダイガク ヤマ」の方

会費納入について

●振り込み口座について

別記事にもありますように、会計年度は1月～12月です。会費を納めた年は送付物の宛名ラベルの下に印刷してあります。

年度が変わりますので、2010年度の会費の納入をお願いいたします。

振込先：ゆうちょ銀行

記号 10140

番号 69076511

加入者：日本語教育方法研究会

・会費は3000円です。

* ご注意

・この口座は電信払込しかご利用いただけません。氏名を先にご入力ください。印字の都合上、ご所属のみしか届かず、お名前が判明できない場合があります。

・なお、海外からの会費払い込みについては、国際郵便為替でお支払ってください。

別紙にもありますが、会費を2年間未納の場合は自動的に除名となります。除名後に再入会なさる場合には過去の未納分をお支払いいただきました上での手続きとなりますので、何卒よろしくお願いたします。

問い合わせ先：

jlem@sal.tohoku.ac.jp

次ページに
重要な

お知らせがあります。



JLEM 会員の皆様へ
会費・会員資格に関わる重要なお知らせ

2009.11.6
JLEM 事務局

(1) 会計年度

- ・ 1月1日から12月31日までです。
- ・ その年度の会費の有効期間は12月末日までですので、1月になりましたら新しい年度の会費納入義務が生じます。
- ・ 退会のご意思がごありの場合は12月末日までに手続きをお願いします。

(2) 会員資格

- ・ 会員資格は自動継続です。
- ・ 2年度分会費の払い込みがない場合は会員資格を喪失し退会扱いとなります。

(3) 会費

- ・ 年度途中の入会において月割り計算は致しません。
- ・ 一度払い込まれた会費を退会時に月割り計算して払い戻すことはいたしません。
- ・ JLEM からお送りする封筒の宛名ラベルに会費払い込み情報が記されています。2009 とある方は2009年度分「払い込み済」です。ただし、ラベルの発行直前直後に振り込まれた場合はその情報が反映されない場合があります。ご了承ください。
- ・ 毎年12月送付のニュースレターに郵便振替用紙を同封します。会費の納入にご利用ください。
- ・ 退会時に会費未納分がごありの方はその分を納入していただきます。

(4) ニュースレターと会誌

- ・ 2010年度より、5月末時点で当該年度の会費の払い込みが確認できない方には以後会誌の送付を停止します。ニュースレターが届いても会誌が届いていない場合には、会費払い込みをご確認ください。

(5) 諸規定の変更について

- ・ 今後、会費・会員資格に関わる諸規定が変更された場合は、ニュースレターやホームページ、総会等で告知いたします。最新のものをご参照下さいますようお願い申し上げます。

JLEM ニュースレター第28号

発行：日本語教育方法研究会

ホームページアドレス：<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jlem/index.html>

メールアドレス：jlem@sal.tohoku.ac.jp

ニュースレター編集担当：小林由子